

薬剤師とのチーム連携が奏功した CTRCD サポート推進への取り組み

◎片山 知子¹⁾、土屋 まさみ¹⁾、前田 恵里¹⁾、井上 愛実¹⁾、林 重孝¹⁾
岡崎市民病院¹⁾

【はじめに】当院は地域がん診療連携拠点病院であり、がん治療関連心筋障害（CTRCD）の早期発見への取り組みは重要である。2020年日本心エコー図学会の「CTRCD診療における心エコー図検査の手引」の発表を契機に開始した心エコーチームのCTRCDサポート推進と薬剤師とのチーム連携による活動について報告する。

【背景】化学療法（化療）を行う診療科へのCTRCD発症リスクの説明と潜在性的心筋障害に有用とされるGLS（Global Longitudinal Strain）計測を含めた心エコーの必要性の周知のため、循環器内科医とともに乳腺外科医師への啓発を皮切りに全がん治療科への啓発を拡大した。心エコーチーム内でのGLS計測における機器間差・検者間誤差是正の教育とマニュアルを作成した。

【目的】化療患者の心エコー検査の漏れを防ぎCTRCDの早期発見と治療により化療の完遂を支援する。

【方法】2024年までの啓発活動中での問題点に対し対策を講じた。化療患者の心エコー実施の有無に対し抗がん剤を払い出す薬剤師と月別リストの共有により現状を確

認し、全がん治療科に対し啓発を行った。化療専用の心エコー依頼枠を設けた。CTRCDとなり循環器内科での治療を経て化療を再開できた症例を全診療科へ提示した。薬剤師は患者カルテに心エコーの依頼漏れをメッセージ送信した。これらを心エコーチームと化療薬剤チーム合同の「CTRCDサポート推進チーム」として活動した。

【結果】化療目的の心エコー数は増加し、CTRCD疑い症例を循環器内科へ紹介した。検査漏れは激減した。

【考察】薬剤師との連携により、化療前検査がなく心機能低下が化療によるか否か不明な症例は減少した。症例提示によりCTRCD評価の重要性は全科に浸透し、専用依頼枠は利便性が増し検査数が増加した。CTRCDの早期発見、化療の完遂、経過観察に対し心エコーチームのがん治療科と循環器内科の橋渡しは必須であり、CTRCDサポート推進チームの活動は有用であると考える。

【結語】心エコーチームと薬剤師とのチーム連携はCTRCDサポート推進への取り組みとして寄与した。

連絡先 0564-21-8111 (内線 7488)